

# 自然を編む。 自然に点数はつけられない。

かずら工芸主宰 用稲トミさん



「かずら工芸館」にて

用稲トミさんは、十一年前、かずらの美しさに魅力を感じ、かずらを編んで工芸品にすることを思い立ちました。以来、各地での個展や工芸展で、作品を発表し、「かずら工芸」の名を全国に広めています。

また、阿蘇郡久木野村に「かずら工芸館」をオープン。創作活動のかたわら、地元の人たちとも交流を深めています。

自然を愛し、豊かな感性で作品を創り続ける用稲さんに、今後の夢などを語っていただきました。

「もったいない」という発想から出発

きっかけは、ふじのつるを取って来て、飾ったことでした。ふじの花が枯れたあと、底をつけてやれば、カゴに



デコレーションされたかずら工芸の数々

なる、と思っただけです。もったいない、という発想です。林業をしている人たちにとつてはやつかいいものつるで工芸品が作れたら……。やるからには、「かずら工芸」の名を残したい、と思いついた。それから三年間ほど、どんなつるが水に強いのか、虫に弱いのか、などについて自分なりに研究しました。欠点を知らない作品になりませんから。つるで工芸品が作れるということを知ってもらいたくて、個展を開いたり、工芸展に出品したりしました。

## 阿蘇の自然に魅せられて

俵山峠から降りて来る時に見える阿蘇の景色に感動して、ここだと思えました。民家があつて人々の生活が見える、その上に雄大な山がそびえる、夕方、大きなホタルみたいにポツンポツンとあかりがつく時は最高です。つるを取りに山に入ると、イノシシやサルに出合います。最初は思わず声を

あげてしまいました。今は平気です。こちらが何もなければ、おとなしくてかわいいものです。こういう自然は荒らされたくないですね。

城南町にあつた細川藩ゆかりの家をたまたま見に行った時、壊してしまふと聞いて、細かいことは何も考えずに買ってしまいました。骨董品級の家を移築して「かずら工芸館」を作り、「かずら工芸」を物産として残す拠点にできれば……。久木野村の協力もあつて、「かずら工芸館」が実現したのです。

久木野には、私だけが知っているステキな景色がたくさんあります。今は週三回、熊本市の自宅から通つて来ますが、将来は久木野の住民になるつもりです。

## 自然の美しさを編む

人生最高です。

熊本には工芸にする材料がまだまだたくさんあります。でも、それが十分

生かしていません。自然には、捨てるものがないですから。私は人が見捨てているものを拾って来て、「自然」にちよつと手を加えているだけ。雨とか風とかでできた「曲がり」は自然が創つた芸術。人間にはできない技です。自然には点数がつけられない。その自然の魅力を感じることが出来る人はしあわせだと思います。

「かずら工芸館」で、かずら工芸を見たいとか、ゆつくりお茶を飲みたいとか言われる方が多いので、創作活動の拠点としてだけでなく、かずら工芸に興味のある人もない人もゆつくり集まる場所になれば、と思つています。

かずら工芸という楽しめるものを見つけれ、人生最高です。これからは、阿蘇の景色と合体するような作品を創っていききたい。自然の美しさを編んだものをたくさんの人に見てほしいと思います。



ロケーションがすばらしい「かずら工芸館」



村の住民ともすつかりうち溶けて…



よういね とみ

- プロフィール
- 青森県生まれ
- 1986年 初個展
- 1989年～91年 銀座熊本館（東京）にて個展。東京にブームを起こす。
- 1989年～94年 大阪・阪神百貨店で開かれた「火の国 熊本味と技展」に出展
- 1993年 「かずら工芸館」オープン
- 1993年～NHK文化センター講師
- 1994年 「くまもの民、工芸展」出展 銀座熊本館